

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

2
月号
No.242

主な内容

- ・第23回 JA 熊本県大会の開催
- ・JA かみましき女性部活動報告
- ・ガンバッテいます：桂 盛幸さん、日永 悠さん
- ・各連合会からのお知らせ



青蓮寺阿弥陀堂（多良木町：写真提供 熊本県）

外観は、素朴に見えるが、鎌倉時代の蔵かで力強い特色を
表わした建造物であり、平成6年から3年かけて復元された。
このお堂には気品高い木造阿弥陀如来や両脇侍立像が安置さ
れており、本堂とともに国指定の重要文化財である。

わがわが

新政権の農業政策が動き出した。「米戸別所得補償制度モデル対策事業」である。これまで、農政局からの市町村担当者やJA担当者の説明会等が開催され、今後各地区の生産者への説明会の開催が予定される。

この「米戸別補償制度」の導入は新政権の農業政策の目玉となっている。民主党の「マニフェスト」にも明記されたように、今後「主要穀物等では完全自給をめざす」としている。このために、農産物の販売価格と生産費の差額を基本とする「戸別所得補償制度」を販売農家に実施する。そして、現在の食料自給率四十一%を、十年後に五十%を目指す。

このためには、「水田を余すことなく活用することが重要」であり、「水田農業の経営を安定させ、自給率向上に取り組み環境を作っていく」とする。その具体策として、「戦略作物等への直接助成」、「環境整備を図るための水田農業経営への助成」を行なうとして、平成二十一年度予算に、総額五千六百十八億円が計上された。

今後この制度の周知を図るために、各地区で生産者に対する研修会等が予定される。

今回、JA菊池菊陽支所で開催された研修会に出席した。農政局の担当者の説明の後、生産農家から様々な質疑・意見等が出された。

「調整水田等で、不作地の取り扱いはどうなるのか。」「農産物価格が暴落したときはどうするのか。」「販売を業者に委託している生産者はどうなるのか。」等々。

生産者は、これまで長く続いてきた政策の大転換に、大きな「戸惑いと不安」を感じている。

今後、このモデル対策事業実施に際し、行政とJAが一体となり、生産農家に無用な不安と混乱が生じないように、万全を期さなければならぬ。

第23回JA熊本県大会開催される

JA熊本中央会とJAグループ熊本は、12月4日、県内のJAの役員及び消費者代表など1200名を結集し、「第23回JA熊本県大会」を熊本県立劇場の演劇ホールで盛大に開催した。

今回は「熊本農業と地域の再生に向けた新たな協同の創造」をメインテーマとして、向こう3カ年に実践する3つの重点実施事項を柱とする議案が提案され、満場一致で決議された。



▲挨拶をする園田俊宏熊本中央会会長



▲議案説明をする
JA 熊本経済連上村会長

まず挨拶に立った園田俊宏JA熊本中央会会長は、「利用者・一般消費者をはじめ県民の理解と支持が得られるよう、最善の努力をします。私たちは今一度、協同組合の理念を再認識し、地域に新たな協同の輪を広げます。本県JAグループの組合員・役員員の知識と経験、そして知恵により決議事項の実現に向けて主要な取り組み事項を実践し、農業振興と地域の再生に大きな役割を果たしていきます。」と挨拶をした。

この後、JAやつしろうの加来誠一氏を議長に選出、上村幸男JA経済連会長が議案説明を行った。又、3人の代表が、①生産者と消費者を結ぶ地域農業の復権②JAの総合性発揮に

よる地域の再生③協同を支えるJA経営の確立の重点実施事項について意見表明をし、満場一致で決議された。さらに生産現場の声を農政運動に反映させ、JAグループが一致団結してWTO農業交渉に取組むなど3項目の農政運動の強化に関する特別決議を採択した。

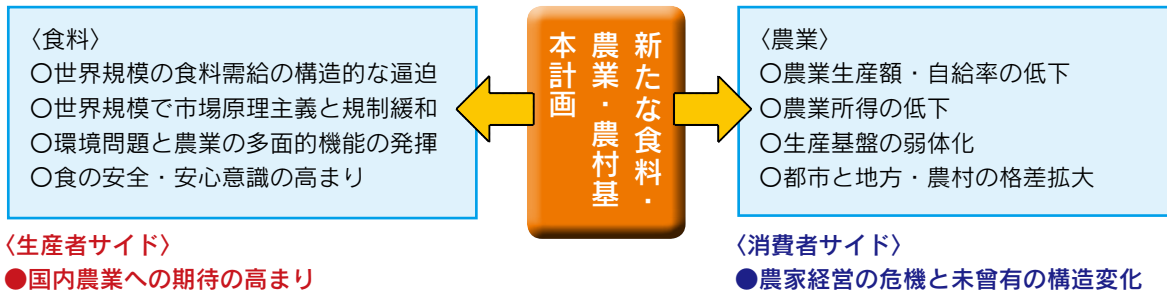
われわれJAグループは、結集力を強化し、多様な連携・ネットワークを構築することで「新たな協同」を創造し、地域で必要とされる組織としての機能を発揮していくことを誓った。大会で決議された第23回JA熊本県大会議案「熊本の農業と地域の再生に向けた新たな協同の創造」の概要について紹介する。



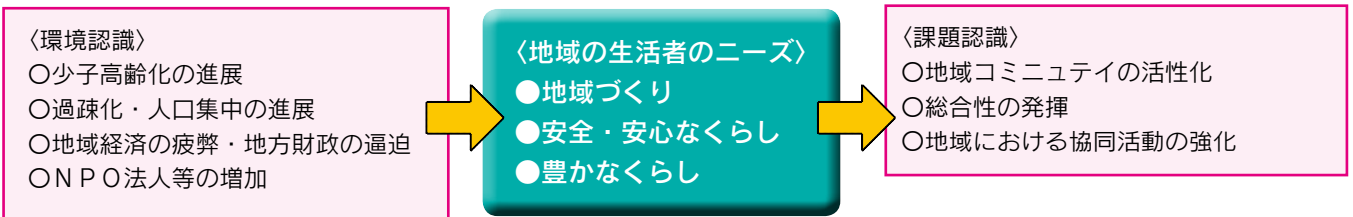
▲JAの役員や消費者代表など1200名が結集

J Aグループを取り巻く情勢

【食料・農業をめぐる環境・課題】



【くらし・地域をめぐる環境・課題】



【J A経営をめぐる現状】

単位：億円、千戸、千人、千ha

	H10	H20		H10	H20
農業産出額	3,640	(H19)3,046	青壮年部 (人)	6,765	4,102
生産農業所得	1,676	(H19)1,075	女性部 (人)	37,577	19,437
農家戸数	81.0	(H17)74.2	役員 (人)	770	452
基幹的農業従事者数	87.0	(H17)82.0	職員 (人)	7,509	5,947
耕地面積	128.5	(H19)119.1	貯金	7,621	8,985
耕作放棄地面積	(H.12)5.6	(H19)6.3	貸出金	3,182	3,047
組合員数 (人)	153,045	153,777	長期共済保有高	77,457	58,731
(うち正)	113,550	103,475	販売品販売高	1,943	1,429
(うち准)	39,495	50,302	購買品供給高	1,373	1,137

新たな協同の創造

これまでの組合員間の協同を再構築してさらに強化していくとともに、多様な農業経営体の結集や、地元企業と農業者・JAの連携、消費者と農業者の課題の共有化など、組合員を中心として、多様な人・組織と多様な方法で連携・ネットワークを構築していくことにより、協同の力を発揮していくことを目指します。

次期3カ年の「重点実施事項」

I 生産者と消費者を結ぶ地域農業の復権

1. 信頼と高い評価を誇る熊本農畜産物ブランド戦略の実践
2. 多様な地域農業を支える担い手の育成・支援
3. 農地の有効活用による生産性向上支援
4. 地域農業を総合的にマネジメントする支援体制の確立
5. 国民合意のもとでの農業政策の実現
6. 食料・農業・JAへの理解促進を図る広報活動の展開

II JAの総合性発揮による地域の再生

1. 組合員・地域住民の生活の総合的な支援
2. 「食・農・健康」を軸とした地域活性化

3. 「助けあい」を軸とした地域セーフティネット機能の発揮
4. 地域コミュニティ活性化の「場」の設定
5. 「JAくらしの活動」の体制の構築

III 協同をささえるJA経営の確立

1. 総合事業性を発揮するためのJAらしい経営スタイルの確立
2. JAグループの事業伸長と効率経営に向けた対応
3. 組織基盤の拡充と事業基盤の強化、組合員との関係強化
4. 協同活動を促進する学習活動の強化と活力ある職場づくり

「JA活動総合3カ年計画」の策定・実践

めざすべき基本方向

将来とも、農村・地域社会において最も信頼され、組合員をはじめとする利用者・一般消費者等から第一に選ばれるJAグループを目指す。

組合員農家の所得向上

安全・安心な農畜産物の安定供給

安心で豊かな暮らしの実現

信頼を高めるJA経営の確立

3月号で次期3カ年の「重点実施事項」について紹介します。

女性部活動報告

■ JAかみましき女性部活動報告 ■

JAかみましき女性部は、6つの支部と本部があり、現在972名の部員で活動しています。昨年は、2人の女性理事が誕生し、女性部も心強いところです。本年も女性部のすばらしい笑顔と元気を皆さんに届けたいと思います。

〈女性部・役員合同グランドゴルフ大会〉

女性部は、8月1日（土）甲佐町のグリーンパール甲佐でグランドゴルフ大会を開催し、250名が参加しました。部員間の親睦を深めようと開かれたもので、女性部30チーム、役員1チーム、職員7チームの参加がありました。始めに全員でレインボー体操で体をほぐしプレー開始。暑い一日でしたが、ボールの行方に一喜一憂しながら、大会を楽しみました。

〈ふれあいの旅〉

女性部は、11月に1泊2日の日程で「ふれあいの旅」を実施しました。行き先は、「宮崎」で46名の参加があり、朝早くからの出発でしたが、バスの中は大賑

わい。宮崎県庁では、東国原知事には、残念ながら会うことはできませんでした。宿泊したところは、「地産地消」の食にこだわりのもとたれて、宮崎牛、ポーク、鶏肉とたくさんさんの料理を味わい、おいに盛り上がりました。今回は、直売所も視察し、たくさんのおみやげと思いい出を残し「ふれあいの旅」は無事終了しました。

〈食の祭典 我が家の自慢料理〉

女性部は、地産地消への取り組みを地域住民に広く普及することを目的として、11月21日にJA益城支所で「よかよか うまか かみましき」を開催し、女性部、JA役員関係者160名が参加しました。それぞれの家庭の自慢料理を持ち寄り交流と親睦を図ろうと62点が出品。人気投票で入賞者を決定しました。会場では、家の光協会 講師の萬野保子先生が、「女性は、笑顔と元気がいちばん！」と題し講演が行われました。昼食は、全員で「だんご汁」をいただき、午後からは、おたのしみ抽選会も行いました。



▲グランドゴルフ大会



▶「我が家の自慢料理」審査の様子



▲柿の春巻



▲鯖で巻々 etc...



▲ふれあいの旅



桂 盛幸さん
JA熊本市

JA熊本市の桂さんのお宅を訪問しました。桂さんは、昭和29年3月生まれ。熊農高から県畜産試験場へ。そこでは家畜人工授精の資格を取られるなど、家畜に関する専門的知識を身につけられました。父の跡を継いで酪農を始め、4年後には、牧場を規模拡大するなど本格的に取組み、早いもので37年近くが経ちました。

現在は、夫婦で成牛45頭（ホルスタイン）、育成牛25頭を飼育しており、10町、牧草の町の自家飼料と購入飼料で育っています。

酪農の仕事

酪農は、生き物に関わる仕事で気が抜けません。朝5時頃、牧場に出かけて、掃除、それが終わると牛たちに餌を与えながら、搾乳を始め、集めた生乳は、酪農工場に出荷します。このよゆうな一連の仕事を終わってから朝食をとります。また、夕方も搾乳します。その間、牛たちの健康チェックや牛舎のまわりの手入れ、牧草地

の作業と忙しく時間に追われる毎日です。

農民総決起大会

一昨年は、アメリカでバイオエタノールの原料となるコーンの値上がりから、輸入飼料代や燃料の高騰など生産費が上昇し、加えて生産者乳価が下がるなど大変厳しい経営環境でした。そこで、平成20年2月に九州・沖縄の酪農家が白川公園に集結して「酪農危機突破九州・沖縄酪農民総決起大会」を開いて、政府や与党に緊急対策をしてもらうように要請しました。その結果、対策の効果もあり、現在は乳価も上がり、少し楽になりました。

酪農家の心配

今、酪農家として心配していることがありません。景気後退の中で、消費者心理を受けて、スーパーなど量販店では、販売価格が安い成分調整牛乳の取扱いを増やし、少し高めの本来の無調整牛乳が伸び悩んでいます。今後、乳量の抑制や乳価がダウンしないか心配です。

また、獣医師不足が気になります。獣医師になってもペットなど小動物の医師になる人が多くて、牛や馬など大型の動物の医師になる人が少なく、緊急時にすぐ来てもらえないケースも出て来ないかと、酪農家としては大変心配しています。

好きな言葉

ゆとり「時間、経済などについてあくせくせずに、余裕を持って取り組み、人間として豊かな心で生活していきたい。」と話していただきました。



ひえい はるか
日永 悠さん
JA熊本県女性組織協議会・フレッシュミズ部会事務局

これまでにたくさんフレッシュミズ部員と、その活動を紹介してきました。今回は県のフレッシュミズ活動の支援を行う、JA熊本県女性組織協議会・フレッシュミズ部会事務局を取材しました。取材を受けてくれたのは、今年配属されて一年目の日永さんです。

事務局はこんなところ

現在の事務局は営農生活センター生活福祉統括部の一村部長、東山さん、石川さん、日永さんの四名で構成されています。いつも和気あいあいとした雰囲気です。困りで仕事をしています。

事務局の仕事

事務局では、四季の料理教室、フレッシュミズ部会で開催する「舞夢フォーラム」定期的にあるフレッシュミズ代表者会議などの企画、調整。また部員さんからの要望の取りまとめを担当しています。日永さんは、時には料理教室や

様々な企画のアシスタントとして活躍しています。また今年一月に開催された全国フレッシュミズ大会にも参加。他の地域の部員さん達と交流しました。

アシスタントは難しい

年に四回開催される料理教室では、日永さん達が料理講師のアシスタントを務めます。「自分で作る時とは違い、何でも正確に計量しなければならぬことが難しいわ。」

フレッシュミズ部員さんとの交流

初めて「フレッシュミズ」という言葉を聞いた時は、どういう組織なのか分からなかった日永さん。実際に担当してみてもう思ったのと同じよいか。

「一年間やってみて楽しかったです。各地区の代表者の方はリーダーシップがあり、意見もしっかり言ってくださいます。年齢の近い人が多くて話しやすく、お姉さんの様に感じています。」

今後の期待と抱負

日永さんは、今後の抱負として、「資料づくりを速く正確にすること。そして、県下のフレッシュミズ部員をもっと増やすことです。現在は八百人ですが、千人を目標にしたいです。」と話されました。

J A くまの早田生子さんが最優秀賞

〔第57回熊本県家の光大会〕

J A 熊本中央会と(社)家の光協会は1月14日、宇城市で第57回熊本県家の光大会を開催し、J A 女性部・愛読者ら650人が参加しました。

家の光記事活用体験発表には6人が出場し、「グループ活動100パーセント稼働中」と題して発表したJ A くま女性部相良支部の早田生子さんが最優秀賞に輝きました。早田さんは2月9、10日に大阪市で開かれる全国大会に出場します。

また、当日は「第32回ちやくりん読書感想文全国コンクール」入賞者の表彰もあり、入賞者を代表して優秀賞を受賞した八代市立種山小学校4年の藤田優斗さんが感想文を朗読しました。

記念講演では、(社)上方落語協会理事の桂文福師匠が「笑って笑ってお元気で私の落語人生」と題して講演しました。



▶最優秀賞に輝いた早田さん(写真右)

米戸別所得補償モデル対策説明会を開く

熊本県水田農業推進協議会は1月7日熊本市で、米戸別所得補償モデル対策説明会を開きました。11年度の戸別所得補償制度の本格実施に向け、事業の効果や円滑な事業運営を検証することを目的に10年度から実施される同モデル対策の説明を行いました。県内の行政関係・J A などから水田農業担当者ら約500名が参加。

説明会では、交付金単価や今後の説明会のスケジュールなど戸別所得補償制度モデル対策の懸案事項などが説明されました。

説明会参加者は、調整水田の不作地への対応や二毛作助成など交付金の取り扱い、モデル対策の加入申請・交付手続など質疑を行い、内容を確認しました。

本県では、県産米を使った焼酎の製造を奨励しているため、加工米(焼酎米)の交付金単価が飼料用米の生産単価よりも低いことで、今後、制度導入の上で影響を及ぼすことが予想されます。

更に、地域段階における戸別所得補償制度の趣旨・モデル対策の内容等の周知をはじめ、交付金の申請手続等を円滑に進めるため、国と都道府県(県水田協議会)・市町村(地域水田協議会)とが密接に連携し、生産農家に対して周知徹底を行っていきます。

J A 植木まつり開幕

くまもとに春を 農に夢を 感動発見!!

くまもとの春の訪れを告げる緑の祭典「J A 植木まつり」が1月23日、合志市の熊本県農業公園カントリーパークで始まりました。

J A 熊本経済連、県内J A の主催で昭和51年に始まり今年で35回目。会場には、県内の11J A からマキ・梅・松などの庭木をはじめ、洋ラン・パンジー・シクラメン・ハーブ・盆栽などの花鉢苗物、趣向を凝らした庭園、地域自慢の特産品など約120万点が出



▲一足早い春の訪れに、ファンで賑わう植木まつり。

品、展示即売します。また、スタンプラリーやオークションなども予定。更に、今年は35周年記念行事のイベントや、期間中の土・日曜日には、さまざまなイベントを催します。

開催期間は2月22日(月)まで。入場無料。開催時間は午前9時から午後5時までで期間中は無休。J A 植木まつり事務局(電)096(242)8871。

いちご試食宣伝会—N香港

J A たまな、熊本県農畜産物輸出促進協議会は1月30・31日の2日間、香港のスーパーで、熊本県産いちご「ひのしずく」の試食宣伝会を行いました。売り場には、女性の生産者が立ち、出荷ピークに向けた消費拡大を図るためアピール。上品な甘味があり、とてもジューシーであると、特に女性や子供たちに大人気でした。

香港へのいちごの輸出量は、平成20年度は約7.8トで、本年度12月末現在では、約3.7トとなっており、15トの輸出量を目指しています。

J A たまなでは、平成16年度から、香港を中心に「ひのしずく」の輸出事業に取り組んでおり、「玉マーク」シールを貼り、認知度アップ・ブランド化を目指しています。また、本年度から産地女性部による試食宣伝会を定期的に実施し、継続出荷・輸出量の拡大に努めていきます。

初春を JA 共済が駆け抜ける!

〔第27回熊日郡市対抗女子駅伝に協賛〕

JA 共済が協賛している「第27回熊日郡市対抗女子駅伝」が1月24日(日)、熊本市上通町のびぶれす熊日会館前を発着点に、上益城郡益城町下小谷を折り返す7区間30kmのコースに19チームが出場して行われ、菊池郡市チームが1時間40分47秒で、初優勝を果たしました。2位には1時間41分11秒で熊本市チーム、天草市チームが1時間41分32秒で3位に入りました。

最優秀選手には、1区の区間記録を30秒近く更新した、菊池郡市チームの中学1年生 一紋野女選手が選ばれました。優秀選手は、4区のエース区間で区間新記録を出した菊池郡市の野田沙織選手。躍進賞は、昨年17位から10位に順位を上げた下益城郡チームが受賞しました。

本大会は、熊本県内の女子長距離選手の手育成と底辺の拡大を目的に、昭和



▲びぶれす熊日会館前が発着点

58年から毎年開催され、今年で27回目を迎える伝統ある大会となっております。これまでも松野明美選手や川上優子選手ら数多くの全国レベルのランナーを輩出し、沿道の熱心な応援風景とともに熊本の初春を飾る風物詩として欠かせないものになっています。JA 共済は、これからも地域に密着した活動を展開し、組合員・利用者への No.1 の安心と満足の提供を目指していきます。



A 加工事業に取り組み JA は 469 J

農産物に付加価値をつけ、生産者の手取り収入を増大させるため、多くの JA が農畜産物の加工事業に取り組んでいます。それぞれ地域の特産物を生かした製品開発に取り組んでいることから、その加工品目や事業規模は多種多様です。

加工事業を行っている JA 数は 2006 年度で 469 JA と、半数以上の JA で取り組みが行われています。売上高は 1990 年度以降急速に伸び、1998 年度は 1,970 億円にまでなりました。その後やや減少し、2006 年度は 1,239 億円となっております。加工事業の中で、売上高のもっとも大きなものはでん粉及び芋加工の 274 億円(2006 年度)。ついで製茶 186 億円、精

米麦加工 149 億円、畜乳加工 130 億円などとなっております。JA グループでは、こうした加工や商品化の取り組みを「農商工連携」としてあらためて位置づけ、JA と地域の商工業者との連携し、地場の特産物、その土地ならではのモノづくりのノウハウなど、地域の「宝さがし」による地域再活性化にチャレンジしていきます。

参考：JA 全中「JA ファクトブック 2009」

「よい食クイズ」

Q・お米を保存するのに適した場所は、すずしくて湿気の多いところ。ウソ？ ホント？

ウソ？ ホント？



←正解は裏面へ

あじがき

● 黄金色に咲く福寿草は、「日が当たると開き、さえぎると蕾む。」を繰り返しながら春の訪れを待つ。



二月に咲く花【福寿草】

旧暦の元日の頃に開花することから、幸福の「福」と、めでたさ長寿の「寿」をあつて、福寿草の名がついた。

新年を祝う花としておめでたい「元日草」「朔日草」(ツイタチソウ)などの名前でも呼ばれている。丘陵に雪を割って咲き出す光景は、必見の価値がある。

(花ごとは) 幸福を招く

キンポウゲ科 多年草 日本、中国

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部（JA本・支所）へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連

電話 096-328-1284

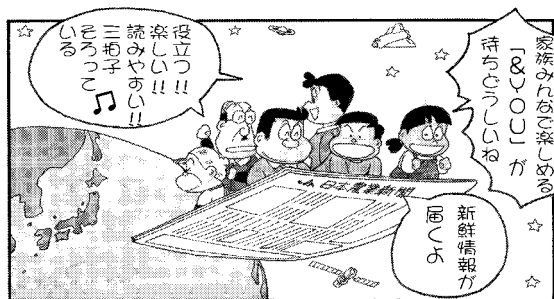
FAX 096-326-5807

食と農 ひらく未来へ確かな目



「食と農のかけ橋」面を創設

食のニーズ、消費者の声を正しくとらえて産地へ価値ある情報を発信します。月曜日から金曜日まで終面カラーで届けます。



紙面を刷新▶ 情報を素早く分かりやすく

役立つ情報を毎日▶ 農産物市況予測を充実・農業の実用記事を満載・気象見通しを強化

JAグループ
日本農業新聞

購読のお申し込みはJAへ 定価1か月2,550円

JA熊本中央会

毎日のドライブに載せたい、
たしかな安心。



JA共済

ご加入にあたりましては、お近くのJA（農協）へお問い合わせください。

■ホームページアドレス <http://www.ja-kyosai.or.jp>

自動車共済のお見積りサービス実施中！
<http://e-service.ja-kyosai.or.jp/>

ずっとサンキューキャンペーン実施中！
<http://www.3qja.jp>

0948105022

【よい食クイズ】

答え：ウソ

お米の保存は、すずしくて湿気の少ない場所で！

JA全中発行「ごはんちゃんのお米クイズ（生活編）」より転載



第35回 熊本の春の訪れを告げる緑の祭典

植木まつり

平成22年 1月23日(土) 午前9時～午後5時
2月22日(月)

熊本県農業公園
[カントリーパーク]



KUMAMOTO

JA熊本経済連